

議長定例記者会見の概要

日 時：令和3年8月25日(水)
16時17分～16時47分

場 所：議長応接室



【議長発言】

(中野議長)

どうもお疲れさまでした。

6月議会が終わって2か月ですが、本日、臨時会が開催されました。知事がまん延防止等重点措置を要望されておりましたが、それが今日18時ごろに正式決定されるそうなので、非常にいいタイミングで議会が開催されたと評価をしているところです。

今後はまん延防止対策として、県民や県内の事業者にも、いろいろと犠牲を強いる部分があるわけですが、対策がうまくいくようにと思っています。できれば、連日100名を超える感染者数が早く100名以下になるように、そしてどこの県よりも早く収束していくように願っているところであります。

以上で、挨拶とさせていただきます。

【質疑応答】

(宮崎日日新聞)

今回の臨時会のメインである、まん延防止等重点措置に関する件です。今回86億円の予算が可決されましたけれども、「まん延防止措置が適用されたら」という前提で編成しており、県としては非常に珍しい予算編成の方法だと思いました。

いざ適用されたときに迅速に動けるよう、そこを見越しての対応だったと思うのですが、どう感じられたでしょうか。

(中野議長)

全く同じことを私も思いました。

そんなことなら今までの専決は何だったのか、と言いたい気持ちですが、我々は臨時会を開くことに何ら反対する理由もありませんので、開催いたしました。

まん延防止が適用されない場合ですが、適用されなくとも実施できる事業が補正予算の中にあるので、それを実施するということでした。その場合、結果として、縮小した予算になると思います。

ところで、九州管内でも、宮崎県よりも数値的に厳しい県がありますし、県を越える移動をしないように要請するわけですから、九州各県が連携して対策を行ったほうがいいのではないかと考えて、担当課に聞いたのですが、執行部からも、ほかの県にも呼びかけたといったような説明がありました。その結果、昨日になって、佐賀県と長崎県もまん延防止の対象に入っていたので、これは連携をとった成果だなと思いました。

こういう措置をとると、民間の事業者等に制約を課すことになるわけですが、感染拡大を早く収束させ、経済活動も通常どおりにするためには、漫然と制約するよりはいいのかなという気はしているところです。

(宮崎日日新聞)

まん延防止の適用を知事が要請したことには、県独自の緊急事態宣言より厳しい状況だということを県民へアピールするような意味合いもあったと思うのですが。

(中野議長)

今の緊急事態宣言は県独自の制度で、これよりも、まん延防止が一つ厳しい段階で、1番上が国の緊急事態宣言ということでしょう。

お盆の人の動きの結果が出るのがちょうど今頃になりますが、お盆の前に、少しずつ感染者数が増えてきていたので、お盆にかけて緊急事態宣言を行ったけれども、どうも心配していたとおり感染者数が増えてきたから、ここでもう一つ上の段階をとろうということだと思っております。

まん延防止等重点措置の対象は、知事が指定するらしいのですが、今回は宮崎市と日向市と門川町が予定されている。けれども、ほかの市町村でももし感染者数が増えれば、いつでも指定できるようです。今回の補正予算の86億円は、3市町だけの予算ではなくて、対象を広げた場合も想定した予算であるとのこと。

(宮崎日日新聞)

年明けや5月の波の時から、県が非常に先手先手をとって対応をしている、といった専門家のお話もあります。それが功を奏してしてる場合もありますが、今回はそれを上回るような感染拡大です。今日の臨時会も含めて、県のコロナ対応をどう評価されているでしょうか。

(中野議長)

今年の1月は、それまで感染者数が多かったのが、県独自の緊急事態宣言をした頃からかなり減って、私も一般質問で「つるべ落としの成果がありました」と知事を評価しました。

今回も、先手をとって対応する中の一つだから、きっと効果も出ると思っています。今度のデルタ株は、想定よりも感染力が強いかわかりませんが、それでもやっぱり先手を打とうとして、国もそれを認めてくれたのだと思います。これがいい事例になれば、ほかの都道府県も評価してくれて、宮崎方式と言っていいのか、河野方式と言っていいのかわからないけれども、同様の形でやれるようになればいいと思っています。私も、期待はしています。

(宮崎日日新聞)

今回の波を抑え切れたとしても、今後は衆院選等もあり、人の移動が増えたり、新しい局面になってくると思います。そういった中で、これまで議員という立場でいろいろな選挙等に関わってこられたと思いますが、近く迎える選挙が、今までどおりにはできないというようなことも考えられるのではないのでしょうか。

(中野議長)

選挙のやり方は国全体で考えられるとは思いますが、新しい形でやらないと仕方がないですね。

口蹄疫のときも、ちょうど参院選がありました。あのときも、最後は拡声機を使ったりしたけれども、県下を巡回するとか、要所で立ち止まってそこだけで挨拶しなさいとか、いろいろ指導がありました。

また、直近では、横浜市長選挙や東京都議会議員選挙があったので、選挙で感染状況が悪くなったのかどうか、というデータもあるでしょうから、そういった対策をとって、選挙で感染が拡大するようなことがないようにしなければなりません。

一方で投票率が下がってもいけないですし、各党の考えがどこまで浸透するかの問題もありますから、そこはメディア・報道機関に、もっと活動していただきたいと思います。

感染状況が厳しければ、選挙運動するなということになるかもしれません。投票の仕方もまた、1か所に集めるのはどうなのかと思うので、投票所を増やすとか、密にならないような工夫をいろいろやるのではないのでしょうか。

(宮崎日日新聞)

間もなく定例会も開会するわけですが、あえてコロナ以外の課題を挙げるとしたら、議会として、こういったところを議論の柱にされるのでしょうか。

(中野議長)

9月定例会では、代表質問や一般質問があるから、質問の中身はおのずと、コロナあるいはコロナ後をどうするかといったことになり、それに対する当局の答弁をきちんともらうことが中心になると思います。

あとは決算審査があります。日程がもうすぐ決まると思いますが、決算をないがしろにするという意味ではないけれども、コロナへの対処も含めて、期間の短縮を図ったほうがいいのかどうかを検討しなければならないかもしれません。

代表質問や一般質問は、議員のいろんな思いを発言する場として、きちんと設けなければならないと思います。

今日の常任委員会では、ワクチンを打った方の中にも発症してる人がいるという説明もありました。しかし、結果的には、高齢者の感染者が少ないというのは、ワクチンを打った成果だと思っております。一方で、新学期が始まったのに、子供たちの接種率がまだかなり低いです。若い人たちの接種を早めることで、コロナを鎮静化できるかどうか、実際ワクチンを打った人の分析もしっかりとしてもらえば、効果があるかを評価できると思います。